

社 会

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	人数	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	10	1.6
80～89	53	8.3
70～79	125	19.5
60～69	131	20.5
50～59	128	20.0
40～49	112	17.5
30～39	38	5.9
20～29	31	4.8
10～19	12	1.9
1～9	0	0.0
0	0	0.0

*合格者の中から、無作為に抽出した640人(13.3%)の結果である。

*%の数値は、小数第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率	
1	1	(1)	86.1
		(2)	60.9
		(3)	33.1
		(4)	69.6
		(5)	19.0
	2	(1)	79.7
		(2)	81.4
		(3)	58.1
		(4)	76.9
		(5)	ア 77.0 イ 50.7
小計		60.5	
2	1	(1)	94.4
		(2)	48.0
		(3)	70.5
		(4)	ア 50.9 イ 42.9
		(5)	ウ 79.6 エ 64.9
	2	(1)	75.1
		(2)	31.4
		(3)	74.8
		(4)	43.5
		(5)	ア 79.3 イ 54.8
小計		61.7	
3	1	(1)	26.3
		(2)	82.3
		(3)	71.6
		(4)	53.4
		(5)	ア 52.7 イ 44.2
	2	(1)	72.7
		(2)	85.5
		(3)	71.5
		(4)	ア 35.9 イ 14.6
		(5)	ウ 60.6 エ 61.8
小計		55.0	
4	1	(1)	43.4
		(2)	46.0
	3	ア	58.3
		イ	45.8
	4	ア	66.4
		イ	53.0
	小計		50.8

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	分野	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1	地理的分野	54.9	61.8	58.5	62.3	60.5
2	歴史的分野	61.6	56.8	60.5	52.2	61.7
3	公民的分野	52.3	54.9	57.0	45.6	55.0
4	3分野融合	31.0	68.9	43.8	45.3	50.8

2 分析結果の概要

合格者の社会の平均点^(※)は、55.5点で昨年度と比べ上昇した(昨年度51.0点)。

(※)平均点は全日制すべての合格者4,812人のものである。

〈表1〉について、60点台の人数が全体の20.5%で最も多い(昨年度は、50点台で18.3%)。70点以上の人数は全体の29.4%で、昨年度に比べ増加した(昨年度23.6%)。40点未満の人数は全体の12.6%で昨年度に比べ減少した(昨年度26.1%)。

〈表2〉について、正答率80%以上の問題数は5問で、資料を用いて基礎的・基本的な知識・理解を問う問題の正答率が高かった(1の1(1)、2(2)、2の1(1)、3の1(2)、2(2))。正答率40%未満の問題数は6問で、公民的分野の基本的な知識の定着(3の1(1))や、歴史的分野の各時代のできごとの流れを理解する能力に加えて(2の2(2))、資料をもとに知識を活用して判断したり、表現したりする力をみる問題の正答率が低かった(1の1(3)、1(5)、3の2(4))。

〈表3〉について、分野別の正答率は歴史的分野が最も高かった。昨年度との比較では、地理的分野が低くなり、他の2分野と3分野融合問題は高くなった。

3 標準解答及び大問ごとのねらい

1 標準解答

1	(1)	オーストラリア	(2)	イ	(3)	ア	(4)	(例) 1 haあたりの収量が高く、加工しやすい
	(5)	(例) 暖房の熱が永久凍土をとかし、建物がかたむく						
2	(1)	イ → ア → ウ	(2)	ウ	(3)	イ	(4)	(例) アルコールを飲まないイスラム教徒が多い
	(5)	ア	(例) 新たな収入			イ	(例) 交通手段の維持	

〈ねらい〉

「日本の標準時子午線に位置する国の環境」をテーマに作成した資料、「九州地方の交通網の整備と人々の暮らし」をテーマに作成した資料を題材にした。それらを基に、世界と日本の地域構成を大観し、世界と日本の人々の生活や環境の多様性などの地域的特色を理解する基礎的・基本的な知識・技能をみるとともに、諸資料を活用して、地理的事象を多面的・多角的にとらえるための思考力・判断力・表現力等を見る。

2 標準解答

1	(1)	ア	(2)	エ	(3)	イ	(4)	ア	(例) 国王と認められる	イ	(例) ほかの国よりも優位にたてる
	(5)	ウ	(例) 多くの費用がかかる				エ	(例) 大名との主従関係			
2	(1)	ウ	(2)	ア	(3)	エ	(4)	(例) 食料不足が深刻で、農村に買い出しに行った			
	(5)	ア	(例) 戦争が続いたことで、国の財政が赤字となっていた				イ	(例) 平民だけが税を負担していたため、不満が高まっていた			

〈ねらい〉

「宮崎県の文化財」をテーマに作成した資料、「民衆運動の歩み」をテーマに作成した資料を題材にした。それらを基に、各時代の特色を踏まえながら、我が国の伝統と文化の特色、国際関係や文化交流、我が国の歴史の背景にある世界の歴史の内容について、基礎的・基本的な知識・技能をみるとともに、諸資料を活用して、歴史的事象を多面的・多角的にとらえるための思考力・判断力・表現力等を見る。

3 〈標準解答〉

1	(1)	立憲	(2)	(例) プライバシーの権利	(3)	エ
	(4)	(例) 慎重な審議によって、衆議院の行きすぎをおさえる				
	(5)	ア	(例) 条例を制定する	イ	(例) 地域づくりに積極的に参加する	
2	(1)	(例) 製造物責任法	(2)	イ	(3)	(例) 外国語の併記
	(4)	ア	(例) 所得の低い人ほど、税負担の割合が高くなる	イ	(例) 公平な負担	
	(5)	ウ	円安	エ	(例) 供給量が減った	

〈ねらい〉

「日本国憲法と政治の仕組み」をテーマに作成した資料、「地域の企業と私たちの生活」をテーマにインターネットで集めた資料を題材にした。それらを基に、憲法に基づいて行われる政治の意義、基本的人権の尊重、主権者としての政治参加の在り方、身近な消費生活、市場の働きと経済について必要な基礎的・基本的な知識・技能をみるとともに、諸資料を活用して、社会的事象を多面的・多角的にとらえるための思考力・判断力・表現力等をみる。

4 〈標準解答〉

(1)	イ	(2)	3月8日の午前3時	(3)	A	ア	B	ウ
(4)	ア	(例) 環境保全	イ	(例) 美しい景観やきれいな空気を守る				

〈ねらい〉

「宮崎県庁本館の有形文化財登録」を題材に、社会科の3分野を融合する視点から、世界や日本について学習する場面を設定した。それらを基に、基礎的・基本的な知識・技能をみるとともに、諸資料を活用して、社会的事象を多面的・多角的にとらえるための思考力・判断力・表現力等をみる。

4 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題形式			評価の観点			正答率	
			記号 選択	用語 記述	記述	知識 理解	思考 判断 表現	資料 活用 の 技能		
1	1	(1)	南半球に位置する国について理解している。		○		●		86.1	
		(2)	資料を参考に、日本を含めた4か国の地形の特色について判断することができる。	○			●	●	60.9	
		(3)	資料から日本がおもに3か国から輸入している貿易品について判断することができる。	○			●	●	33.1	
		(4)	インドネシアのバーム油の生産量が増えている理由について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	69.6
		(5)	ロシアの冷帯の都市に高床式の建物が多い理由について、資料を関連づけて考察し、説明することができる。			○		●	●	19.0
	2	(1)	九州地方の産業の特色について理解している。	○			●		79.7	
		(2)	資料から東九州自動車道に関する特色を読み取り、適切な内容を判断することができる。	○				●	81.4	
		(3)	日本の気候の特色について理解している。	○			●	●	58.1	
		(4)	企業AがしょうゆをASEANに輸出しようとしている理由について、資料を関連づけて説明することができる。			○		●	●	76.9
		(5)	「客貨混載」の取り組みがもたらす効果について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	ア77.0 イ50.7
2	1	(1)	縄文時代の社会の特色について理解している。	○			●		94.4	
		(2)	天平文化の特色について理解している。	○			●		48.0	
		(3)	守護大名と戦国大名の特色について理解している。	○			●		70.5	
		(4)	邪馬台国の女王卑弥呼が、魏に貢ぎ物をおくった理由について、資料を関連づけて考察し、説明することができる。			○		●	●	ア50.9 イ42.9
		(5)	参勤交代の制度が大名にあたえた影響とその意義について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	ウ79.6 エ64.9
	2	(1)	寛政の改革を行った人物について理解している。	○			●		75.1	
		(2)	自由民権運動に関するできごとの流れについて理解している。	○			●		31.4	
		(3)	20世紀はじめに労働争議の参加人員や発生件数が増えた理由について、資料から判断することができる。	○			●	●	74.8	
		(4)	太平洋戦争後の国民生活の影響について、資料を関連づけて考察し、説明することができる。			○		●	●	43.5
		(5)	フランス革命が起こった背景について、資料を関連づけて考察し、説明することができる。			○		●	●	ア79.3 イ54.8
3	1	(1)	立憲主義について理解している。		○		●		26.3	
		(2)	新しい人権について具体的事例を通して理解している。		○		●	●	82.3	
		(3)	人権保障を確かにする参政権について理解している。	○			●		71.6	
		(4)	日本の国会における二院制の意義について、資料を参考に考察し、説明することができる。			○		●	●	53.4
		(5)	地域における住民参加について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	ア52.7 イ44.2
	2	(1)	製造物責任法について理解している。		○		●		72.7	
		(2)	クレジットカードの仕組みについて理解している。	○			●		85.5	
		(3)	グローバル化の中で日本社会が求められる対応について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	71.5
		(4)	税金の公平性について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	ア35.9 イ14.6
		(5)	商品の価格が変化する理由について、資料を基に考察し、説明することができる。			○		●	●	ウ60.6 エ61.8
4	(1)	昭和時代に起こったできごとについて理解している。	○			●		43.4		
	(2)	時差の仕組みを理解し、正しく計算することができる。			○	●	●	46.0		
	(3)	資料から地方財政の状況を読み取り、判断することができる。	○			●	●	ア58.3 イ45.8		
	(4)	ツェルマットのまちづくりについて、資料を基に考察し、視点を示して説明することができる。			○		●	●	ア66.4 イ53.0	